

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

2. 学校概要

学校名 気仙沼市立面瀬小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒988-0133

宮城県気仙沼市松崎下赤田58番地

E-mail : omo-s14@marble.ocn.ne.jp

Website : 工事中

児童生徒数：男子 224名 女子 188名 合計 412名

児童・生徒の年齢 7歳～12歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
 持続発展教育（ESD）（国際理解 世界遺産 平和・人権 環境 気候変動
生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 そのほか（ ））
 そのほか（ ）

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

① 1年『はなや やさいを そだてよう』（生活科15時間）

・「はなややさいをそだてよう」では、植物を育てそれらの変化や生長に関心を持ち、親しみをもって大切に世話をすることができることをねらい、一人一鉢アサガオを育てたり、野菜（枝豆、カボチャなど）の種をまいたり、苗を植えて育てたりした。観察やお世話を続け収穫した野菜は、行事と結び付け、お月見では、枝豆でずんだ団子を作り、お月見のお供えをして楽しんだ。また、カボチャはカボチャ入り蒸しパンを作ったり、冬至には、児童の祖母や母をゲストティーチャーに、カボチャがゆを作って会食し、昔の人々の知恵を学んだ。

② 2年『おいしい野菜をつくろう』（生活科30時間）

・今年度は、東日本大震災のため校外活動が限られ、校地内での活動が多かった。昨年までは、野菜農家見学やミミズ飼育を行ってきたが、今年度はどちらも行うことができなかった。そのため、指導経過卵を見直し、計画を立てた。

まず、一人一鉢にトマトを栽培し大切に世話をすることで、野菜の生長の不思議さ・自然との関わりに気付かせた。また、自分たちが育てたい野菜にサツマイモ、キュウリ、ピーマン、ナス等を選び、畑に植えた。愛着をもって継続的に育てるために、係児童を中心に交代で除草させたり、施肥や支柱立てなどを児童と一緒にしたりした。

また、暑さ対策用に「緑のカーテン」を教室前のテラスに設けゴーヤや支援物資としていただいたノウゼンカズラを植えて世話をさせ、自然の恵みに感謝することができた。野菜の収穫では、それぞれ家庭に持ち帰って調理して食べたり、サツマイモを使った蒸しパンを全員で作って食べたりした。また、サツマイモのツルで輪投げの輪を作り、おもちゃ祭りで遊ぶなど、廃棄物を活用することで自然の恵みに気付くことができた。

野菜栽培のまとめとして、野菜新聞を作って校内に掲示したり、栄養士の先生を招いて野菜のパワーについて一緒に学習したりした。

③ 3年「レッツゴー！おもせたんけんたい」（総合70時間）

・学校周辺から面瀬川まで身近な地域の自然の様子や生きもの調査・観察することで、地域の豊かな自然環境や季節の変化に気付いたり、その自然を守るために自分たちのできることを考えたりする学習を行った。各自で調査したことに気づいたことをレポートにまとめて確認したり、グループで探検マップを作成したりして、発表会をした。

④ 4年『未来へつなげ！面瀬川の命』（総合70時間）

・市役所環境課職員の指導で、面瀬川に住む水生生物の調査による水質判定を実施した。判定結果を基に、面瀬川の環境について学ぶ視点を人・水・生き物の3点とし、児童の興味・関心に沿った課題を設定して、任意のグルー

プによる調査活動を展開した。主な活動内容として、「人」では、面瀬川の環境の移り変わりに詳しい地域の方（お年寄りやふれあいセンター館長さん）へのインタビューを行った。「水」では、川の水の汚れ具合について、汚れた水を薄める実験を行ったり、パックテストキットを使って水質を調べたりした。「生き物」では、水生生物を条件を変えて飼育・観察し、生き物と自然環境の関連について考えた。それぞれのグループの活動結果については、参観日の授業で保護者に発表し、面瀬川の環境保全に対する子どもたちの思いや願いへの理解・支援を求めた。最後に、グループの学びを「面瀬川環境保全活動計画」として表現させ、家庭や地域での実践活動に結びつけた。

⑤ 5年「探ろう、伝えよう豊かな気仙沼の海～森・川・海の環境と人々の生活とのつながりを追って～」（総合70時間）

・昨年3・11東日本大震災の大津波の影響で、面瀬地区の海の活動は全くできない状況となってしまった。さらに、面瀬川にはもの凄い量の瓦礫や漂流物が押し寄せ、以前から私達に学習の場を提供してくれた川が無くなってしまった。そのような中でも、森と川と海をつなぐりを理解させようと、学習を進めた。

始めに、指導に当たる教師が、当地方で進められている「森は海の恋人運動」の植樹運動に参加し、森林と海とのつながりの関係を実際に体験をした。後日、その様子の映像等を児童に見せながら、教師の体験を伝えたことは、児童の意欲を高めるきっかけとなった。

その後は、ゲストティーチャーとして、森林インストラクターから話を聞き、森林のはたらきや森林が海に与える影響などを学んだ。

秋には、岩手県一関市にある「いちのせき健康の森センター」で野外活動を行い、その中でブナ林の散策を行い、実際に森林のはたらきや森林のエコシステムなどの話を聞き、体験活動を行った。

情報を発信する方法としては、昨年度同様新聞社との連携を図った。記者の方から、記事の書き方を具体的に指導していただき、その体験をもとに、「森林のはたらき新聞」作りに挑戦をした。

震災後約10ヶ月が経ってから、鯉鮪組合の方からマグロの水産資源の話を知る活動やマグロ料理教室を開くことができ、海の環境についても学習する機会が与えられたことは、児童にとっても嬉しい時間となった。

⑥ 6年『面瀬環境フェスタを開こう～始めよう、自分たちにできること～』（総合的な学習の時間70時間）

・本活動のねらいは、「地球温暖化について学習することを通して、自分たちの生活を見つめ、自然環境と人間、社会とのかかわりについて考えを深めるようにする。また、人と自然が共生できる豊かな環境を守るために、日常生活の中で自分たちにできることやすべきことを考え、進んで実践できるようにする。」である。

1学期の情報収集の段階では、①地球温暖化の講義（理科担当教員）②地球温暖化の影響とそれを防ぐための取り組み（節電や3Rなど）について

今までの活動の中で、教育の質の向上に効果のあった活動がありましたら、記載願います。

○児童の環境への関心度が例年 80% 超えている（3年～6年児童意識調査より）

- ・環境を守るために、自分たちにできることを考え、生活に生かそうとする環境への意識が高まってきた。

これまで本校では、3年生での面瀬川を中心とした生きもの調査の体験や4年生の面瀬川を中心とした水質調査の体験、5年生の森のはたらきを探る体験、6年生の3Rや地球温暖化を防ぐためのエコ活動（夏休み）の体験を行ってきた。特に、面瀬川での生きもの調査や水質調査は、継続して取り組んできており、川の環境に対する児童の意識も高い。6年生では、「自分たちにできること」を合い言葉に、環境学習のまとめとして、家庭の協力を得ながら節電やゴミの減量などのエコ活動に取り組んだ。さらに、実践したことなどを踏まえて「環境新聞」を作成し、地域に発信してる。

こうしたプログラムの積み重ねによって、児童の身近な環境問題への意識が定着してきている。

○「環境学習が楽しい」例年 90% 超えている（3年～6年児童意識調査より）
「環境の学習が楽しい」と感じている児童が 90%以上となつたている。身近な環境を核とした各学年の学習プログラムが、児童の学ぶ意欲を高めているものとする。

○専門機関との連携による効果

- ・本校では、河北新報社と連携し「新聞の読み方」「取材の仕方」「編集会議の持ち方」「情報整理の仕方」「新聞の見出しの付け方」「紙面作りの仕方」など、新聞づくりの講座を実施している。新聞をつくる過程を通して、児童は、主体的に課題を探究したり、情報を整理・分析したりして、環境問題への自分の考えを深め、進んで行動しようとする意識を高めてきた。さらに、新聞を地域に発信することで、自分が考えたことを発信しようとする意欲や達成感を味わう児童が増えている。このことから、専門機関との連携によって児童の「探究する力」「情報を整理・分析する力」「表現する力」「発信する力」を高め、進んで実践しようとする児童を育む上で効果的であると考える。

○人材活用による教育的効果

- ・NPO「大島大好き」、宮城県環境対策課、気仙沼市環境課等の人材の活用を図ったことで、身近な自然環境と自分たちの生活との関わりについて深く考え、環境保全の意識を高める上で効果が見られた。

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など） CD-ROM 写真
 その他（ ）

**以下につきましては、該当する取組を実施した場合のみ
記載をお願いします。**

□ 実施テーマにおける教材の工夫や授業手法における工夫。

① 地域に根ざした体験的・探究的な学習の工夫

地域の身近な自然環境と触れ合い、自ら課題を発見し、主体的に探究できるように体験的・問題解決的な学習を重視した学習過程や学習形態を取り入れた。

- (例) 1, 2年・・・野菜作り, 身近な自然を生かしたおもちゃまつり
3, 4年・・・面瀬川の生きもの調査, 水質調査
5年・・・森林散策 (一関健康の森)
親子マグロ料理教室 (北鯉鮪組合連携)
6年・・・保護者と連携した節電などのエコ活動 (夏休み)

② 地域・専門機関等との連携

【地域人材との連携】

- 1年・・・祖父母と連携した「かぼちやがゆ作り」
・育てたカボチャで、昔から地域で伝わってきた「カボチャがゆ」の作り方や「カボチャがゆ」を食べる習慣等のお話を祖母から聞いた。
- 4年・・・気仙沼市環境課と連携した面瀬川水質調査
・気仙沼市環境課職員と面瀬川の水生生物を指標とする水質調査を行った。
- 5年・・・「森林インストラクター」との連携
・地域の森林インストラクターから、森林のはたらきや森林が海に与える影響などを学んだ。
河北新報社との連携「新聞づくり講座」
・インタビューの仕方等を学んだ
- 6年・・・NPO「大島大好き」(NPO法人大島大好き・白幡氏)との連携
・菜の花を活用した循環型エネルギーについて学習した。
宮城県環境政策課・横関氏との連携
・地球温暖化, 3Rについて学習した。
- ※震災により、昨年度まで行ってきた「カキ養殖(小松さん)」「干潟調査(小野寺さん)」等との連携ができなかった。次年度に連携したい。

実施テーマに関連した研究旅行の実施。

なし

他国の学校との交流や相互協力の実施。(交流した国、学校名の記載もお願いいたします。特に相手校が ASP ネットワークに参加している場合は、その旨も記載願います。)

なし

国連やユネスコが取り組む国際的な記念日、国際年、国際的な10年を記念する取組の実施。(国際母語の日、国際天文年、識字の10年など)

なし